

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400373		
法人名	NPO法人 高齢者をささえる会		
事業所名	グループホーム伊豆の家		
所在地	静岡県伊東市吉田501番地1		
自己評価作成日	平成26年3月3日	評価結果市町村受理日	平成26年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に所在し、入居しても、今まで暮らしていた場所と変わらない環境で生活することが可能です。ホームでは菜園を3つ所有しており、野菜やお米(農家と契約)がおいしいと大変好評を頂いております。菜園以外にも天気良ければ利用者が散歩などに積極的に出掛けられるよう努めております。また設備面においても2ユニットの新築としては静岡の東部地区では1番建物の広さのようですが、広さだけではなく個別のお部屋に電話を引けたり、今までと変わらない暮らしをサポートしております。また尊厳のあるケア、心のケアを静岡東部で一番を目指して運営しております。この地区の1つの家として地域の方が認識して下さっているようで、運動会やイベントの招待、近隣の幼稚園児や小学生、中学生がよく遊びに来て下さっております。近所の方が「自分の将来、介護が必要となったら伊豆の家に入りたい」と心から、そう思ってくださいる運営方針に当ホームは力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は自然に恵まれ、敷地が広い閑静な環境は、利用者が安心して散歩などを楽しむことができる。自家菜園が広く利用者自ら収穫を行い、野菜は常に新鮮な食材として利用者に提供され、お米も地元のものが使われている。理事長の自宅が道を隔てた所にあるため、災害時や緊急時での対応に安心感があるのも優れている点といえる。事業所の運営は近隣からのボランティアの協力が多く有り、散歩などの外出支援に大きな力となっている。地元に着しているため地域の期待に添えるような運営を心がけている。近隣の幼稚園児や小学生、中学生の訪問も多く地域との交流も活発に行っている。共用部分に十分なスペースがあり、床暖房設備や電話を利用者の部屋に引くなど居心地のよい環境づくりに工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業者連連をつくり正面玄関に理念の文書を掲げ、いつでもどなたにも確認が取れる。また管理者は利用者様が地域の一人として地域に密着した生活ができる様に支援しています。	理念の共有のため代表者は全体会議で利用者が地域の一人として安心して暮らしができるように、職員に話し徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方々に気軽にいつでも会話しやすい雰囲気作りを努めています。また地域の運動会から紹介状を毎年貰って運動会(玉入れ等)に参加しており、地域の幼稚園や小学校、中学校と年間を通じて交流を持っています。	地域の幼稚園、小学校、中学校の子どもたちが定期的に訪問し、入居者と交流している。傾聴イベントボランティアも多く訪れてくれていて、近所からの食材等の差し入れも多く、運動会など地域行事に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、老人会や町内の方など地域の方々に認知症に関する困りごとや相談事があった際には気軽に来ていただくよう依頼したり日頃や、訪問等においても相談等に随時対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議を持ち、利用者の状況や、都度サービスの状況と問題事項の相談等に話し合いを行い意見を聞き現場で生かしています。	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催している。参加者は、区長、民生委員、自治会長、包括支援センター担当者が毎回参加しているが、利用者、利用者家族の参加がされていない。会議では、利用者や事業所の状況を報告している。	運営推進会議はサービス向上のための重要な会議であり、多様な意見が聞ける貴重な場でもあるため、利用者及び家族の参加の促しと議事録の活用を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃よりサービスの取り組み、入居者様の相談や等・TELや訪問等において、連携に努めています。また非常時の情報や停電などの情報共有もその都度、市担当部署にメールを登録しており、必要な情報の共有ができるようしています。	市町村との連携は、日頃から電話や訪問において連絡を密にしているが、何かあった際には必ず訪問し市の窓口とのコミュニケーションを図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会、社員会議等において身体拘束に関する話し合いの場を持ち、検討しています。またホーム内においては、玄関も含め施錠をしておらず、また身体的拘束はもちろんの事、言葉使いも拘束とならぬよう気を付け行っています。	身体拘束をしないケアについて、理事長が職員新人教育の中で話をしている。全体会議でも身体拘束や言葉使いについて、ケースの検討を行っている。出入り口の施錠はせず、職員が見守りを行うことで、行動制限をしないケアに取り組んでいる。声かけは職員同士特に気をつけ合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会、社員会議等において高齢者虐待防止について話し合いの場を持ち、検討しています。またホーム内において、それに関する事項の回覧を回し職員1人ひとりが意識を高めるようにしております。		

静岡県(グループホーム伊豆の家 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームの利用者様で対象になるような方がいた場合、伊東市社会福祉協議会などと協力関係を築いており、情報交換や今後の対応について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約、重要事項説明書等を利用者様、ご家族様の方々に十分な説明をし、質問等にも納得のいくように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時、行事等のご家族の参加等、随時、機会を得て意見や要望を把握し、サービスの提供に繋がるよう努めています。また利用者様及び利用者ご家族様意見箱を設置し運営に要望を反映している。	利用者家族の訪問が頻繁にあることから、家族にはその都度声掛けを心掛けて、利用者の様子を伝えるとともに、意見等の傾聴に努めている。改善すべき意見があった場合は苦情処理委員会に上げてその改善策を職員で共有できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会や社員会議等において意見の場を設けており、できるかぎりスタッフの意見も尊重するよう代表者と管理者は努めている。またタイムカード場所に代表がいるように努めており日頃よりスタッフに声掛けをし意見を聞くように勤めている。	通常職員からの意見の吸い上げは、職制を通じて行っているが、代表者、管理者とも日頃から職員への声掛けを心がけ意見が出やすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から職員の勤務状態等の報告を得て、勤務形態や勤務時間、給与水準を決める様努めています。また努力が認められた職員には定期的に、臨時賞与や施設利用券や商品券などを皆の前で表彰し、配布して喜んで頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護労働安定センターや全国認知症グループホーム協会の会員となっており、各研修に積極的に参加に努めています。また外部研修に参加希望者には勤務の調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や小規模部会(現在会長)などの部会を通じて、積極的に交流会や施設見学会を企画や立案し他事業者との情報交換に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人に十分にヒアリングを行い、ご本人が不安な場合は、共用型ディサービスを利用して頂き、ご本人が安心された時期をみはからって入所を勧めている。また要望等も可能な限り柔軟な対応で受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前は原則、ご家族様宅に伺い家族が抱えてる問題や不安がないよう可能な限り勤めている。またご家族がこられなくても入所後のご本人の写真を送ったり電話で連絡を入れている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主人公は利用者様であるという意識の中、最も望まれるサービス選択にいただき、ご家族様共々、安心、満足ある支援に心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の関係づくりは1つの家族として信頼しあえる間柄であるが尊敬と尊厳を守りつつ築くことに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活の中でささいな出来事や、事柄に対しても、共通の関心を持ち情報の共有によって連携を持ちながら支援していくことに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのかかりつけ医、歯医者はもちろんの事、本人の希望があれば、電話も引ける為今までの馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めています。また馴染みの方が来やすいよう面会時間は24時間として支援に努めています。	利用者がこれまでどおりの環境で生活を継続できるよう、部屋には電話が引かれている。仕事の後にしか面会に来られない家族や馴染みの人に配慮していつでも自由に受け入れている。希望があれば家族が泊まることもできるように配慮されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴に配慮しながら、職員も時には利用者同士の間に入り、話題の架け橋に努めています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の病院などに訪問しその際に相談事や悩み等の対応にできる限り努めています。また対処されたご家族様が御相談に来られる事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の悩みや話を傾聴し、また、生活の中で利用者様の想いに配慮し、生活し易いよう支援に努めています。	入居時に、理事長や管理者は利用者や家族にこれまでの暮らしぶりを聞くとともに入居後の過ごし方について希望を聞いている。具体的には訪問マッサージの希望者には訪問を手配したり、リハビリに出かける希望者には外出支援を行うなど、入居者一人ひとりの思いや意向に沿って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より様々な情報を得て、その方にあった暮らしを尊重し、居室や生活様式にあまり大きな変化がないよう配慮することに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人、お一人にとって一番居心地のよい生活パターンを把握し、できる限り希望にそえるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のアセスメントをすることによって生活にニーズを把握し、ご家族も含め、現在の生活を快適に過ごせるよう介護計画をたてて実行しています。	介護計画の作成はモニタリング後、本人、家族、医師、看護師などの意見を反映させた上で、職員全員参加のサービス担当者会議において作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの長期、短期の目標の実現にそって、その介護内容を実施し、それが証明できる記録の作成に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況に応じて柔軟な対応を心掛けています。例えば、通院介助の付き添いにて日常の様子をコメントしたり、主治医以外の病院からの薬の調達を請け負ったり、個人的な買い物に同行したり独自のサービスにて対応しています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々によるギターや大正琴、踊り等を鑑賞し楽しみや喜びを体験し明日へのエネルギーにつながるよう職員も共に楽しむ姿勢を持っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院と連携を結び月2～4回程度の往診があります。その際、日頃から病状を把握し、ご家族との情報も交換しあいながら連携をもった関わりをしています。	かかりつけ医への診療に家族が連れていく場合は病状チェック表を医師に渡し、家族が連れていけない場合は職員が支援を行っており、受診後は病状経過表で家族に報告を行っている。また専門医には職員が家族に同行し情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護職との連絡がとれており、適切な相談、適切な受診を受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に関しては、往診主治医がほぼ判断し、入院後もホーム関係者や見舞いや洗濯物等の支援や病院のソーシャルワーカーとも関わりをもち退院、準備や、その後の行き先等の相談などで関わりを持っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に重度化した場合や終末期における御家族の希望を把握しホームでの対応のあり方等をご説明できる限り希望にそう支援に努めています。	指針があり、入所時に本人、家族に説明している。重度化した場合は、理事長、家族、医師、看護師、職員と話し合い、対応方針を決める。今年度、お二人の看取りを体験して、家族の希望に添う支援が出来た。職員は経験を積んだが、取り組みの課題はある。	今回の貴重な体験を活かして、今後の終末期の対応の仕方、職員の精神的なフォローなど、更に研修されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、全体会、研修会を通して、職員が応急手当や初期対応の実践力向上に励んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、避難訓練を行い、入居者様への意識付けや昼夜の勤務者が様々な場面での避難の対応が出来る様に繰り返し行っています。地域の方々に関しては、集まりがあった時に協力体制をお願いして承諾を頂いている。	年2回、昼・夜間を想定した避難訓練を消防署及び防災設備業者の協力を得て実施している。近隣の自治会や県営住宅、地域の人達には災害時の協力を依頼し、受け入れの提案もしている。備蓄も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時や全体会等において言葉かけや対応の仕方の社員教育を行っています。また、利用者様を尊重し、尊厳する様努めています。	プライバシーについての社員教育は、入社時に理事長自ら行ってプライバシー尊重の徹底を図っている。ホームページの掲載についても、利用者の顔が特定できないアングル等の配慮を行っており、問題が生じた場合は朝、夕のミーティングで改善策を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話より、利用者様の思いや希望を把握し、職員同士が情報を共有し、自己決定できるよう努めています。また、ケアプラン等にも生かし、ご家族にも情報を伝えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の暮らしの主人公は利用者様であるという意識をもち何かを押し付けたり、嫌々するのではなく、その方の望まれることを見極めてサービスを提供しています。例えば、散歩、レクリエーション、昼寝様々です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容等に配慮し、服装も利用者様の希望の服を選んでいただき、イベント時にはお化粧品などを楽しんでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みの食べ物をなるべく提供し、見た目も楽しめるように工夫していくよう努めます。	新鮮な野菜、地元のお米を使って、食物繊維の多い、彩りの楽しめる食事になるよう配慮している。入居者は下膳をしたり、事業所の近くの畑に出かけていき、野菜の収穫をするなどできることをして、気候のよい時期にはテラスで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食、確認できるよう記録物があり、その様子によって追加摂取したり、補足したりしています。個々の状況により、食材や食形態を検討し、適切な状態での摂取を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアを実施しています。ガーゼ等で磨く場合は清潔保持にも配慮しています。口腔ケアが十分に行えない場合は、口腔ケア用の用品などを使って個別に対応しています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを理解し、できる限り不快感を感じないよう排泄できるよう支援しています。また、オムツで入所された利用者様であっても尿意等がある場合はなるべくトイレにて排泄できるよう支援をしています。	日中はできるだけ声かけをし、オムツ使用者がトイレで排泄ができるように職員は排泄パターンを理解した上で支援を行っている。 夜間は、オムツ、ホータルトイレなど入居者の状況に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より便秘予防の為に食材、水分、運動等に配慮しています。また個別に補助食品として青汁、牛乳、ヨーグルト等を追加して摂取しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日だから無理にという事ではなく、ご本人の希望する日に入浴をするように努めております。また入浴中は、ゆっくりくつろいで入っていたり、ゆっくり会話をしたりと努めています。	基本的に一日おきに入浴を行っているが希望に応じて対応している。拒否の強い人には担当を変えたり、時間をずらすなどの工夫で入浴を楽しめるようにしている。入浴剤の使用で季節感を出し、リラックスできるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人1人の体調を考慮し、動と静のバランスを随時心掛けています。また日中でも体を休めるようフロアーにソファなども用意しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、服薬中の薬の目的、副作用を明示したものを個々のファイルをし各階でスタッフがいつでも見れることができるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の体調や生活パターンに合わせ、レクリエーションをしたり、天気の良い日などは散歩に出かけたりします。また、歩行訓練等にも努めています。カラオケなども通信でユニットごとに配置しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人力的な問題もあり、日頃の散歩以外に各自の人に希望にそった外出はできていないが地域のボランティアさんなどが積極的に関わってくださっており、外出支援を積極的に行ってくださいしている	施設は住宅街の自然に恵まれた環境にあり、車の通行も少なく安全に散歩などを行うことができる。散歩の希望者にはボランティアの協力を得て積極的に行っている。	

静岡県(グループホーム伊豆の家 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の理解度の程度により、個々の手持ちのお金を保持されており、満足感や達成感を体験しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は、居室に電話を引いています。事務所の電話を使用し家族や知人等に電話をかけたり、希望があれば職員が手紙を出したりすることもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により玄関、掲示板の置物や生花、掲示板を支援し、どなたにとっても色、臭い光等が不快なく過ごせるよう空間作りに努めています。また共有空間はエアコン以外に、床暖房や、天井に除菌機能の空気清浄機をフロアごと3つつつ設置し快適に過ごせるよう配慮している。	近所の人から花が届けられ、さまざまな鉢植えが玄関に並んでいる。リビングはゆったり広く、ソファが置かれ、窓が一面に大きく、景色が楽しめる。床暖房、空気清浄機などが設置され、においや温度が管理されている。カラオケや大画面テレビがあり、楽しく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中に応接セットのソファを容姿し、ゆったりと腰かけて他入居者の方々や職員と会話したりくつろげるよう工夫しています。また家具も家庭にいる雰囲気大切にしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具はすべて個人が使用していたものを持参され時計やカレンダー・布団、洋服などそれぞれ持ち込まれています。また電話や仏壇を持ち込まれている利用者もいます。	ベッドや寝具、筆筒など個人が使用していたものは何でも持ち込み可能となっており、時には、搬入を事業所が手伝って、快適に過ごせるように支援している。ベッドの位置や持ち物の配置は居室にスペースがあるため自由に行える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、全てバリアフリーとなっており、共有スペースは空間も広く床暖房も設置されており、危険や事故のないよう配慮されています。また広々としている為、1人ひとりの意向にそったしたいことがゆっくり行える環境です。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400373		
法人名	NPO法人 高齢者をささえる会		
事業所名	グループホーム伊豆の家		
所在地	静岡県伊東市吉田501番地1		
自己評価作成日	平成26年3月3日	評価結果市町村受理日	平成26年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に所在し、入居しても、今まで暮らしていた場所と変わらない環境で生活することが可能です。、ホームでは菜園を3つ所有しており、野菜やお米(農家と契約)がおいしいと大変好評を頂いております。菜園以外にも天気良ければ利用者が散歩などに積極的に出掛けられるよう努めております。また設備面においても2ユニットの新築としては静岡の東部地区では1番建物の広さのようですが、広さだけではなく個別のお部屋に電話を引けたり、今までと変わらない暮らしをサポートしております。また尊厳のあるケア、心のケアを静岡東部で一番を目指して運営しております。この地区の1つの家として地域の方が認識して下さっているようで、運動会やイベントの招待、近隣の幼稚園児や小学生、中学生がよく遊びに来て下さっております。近所の方が「自分の将来、介護が必要となったら伊豆の家に入りたい」と心から、そう思ってくださいの運営方針に当ホームは力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=22

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年3月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業者連連をつくり正面玄関に理念の文書を掲げ、いつでもどなたにも確認が取れる。また管理者は利用者様が地域の一員として地域に密着した生活が出来る様に支援しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に気軽にいつでも会話しやすい雰囲気作りに努めています。また地域の運動会から紹介状を毎年貰って運動会(玉入れ等)に参加しており、地域の幼稚園や小学校、中学校と年間を通じて交流を持っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、老人会や町内の方など地域の方々に認知症に関する困りごとや相談事があった際には気軽に来ていただくよう依頼したり日頃や、訪問等においても相談等に随時対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議を持ち、利用者の状況や、都度サービスの状況と問題事項の相談等に話し合いを行い意見を聞き現場で生かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃よりサービスの取り組み、入居者様の相談や等・TELや訪問等において、連携に努めています。また非常時の情報や停電などの情報共有もその都度、市担当部署にメールを登録しており、必要な情報の共有ができるようしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会、社員会議等において身体拘束に関する話し合いの場を持ち、検討しています。またホーム内においては、玄関も含め施錠をしておらず、また身体的拘束はもちろんの事、言葉使いも拘束とならぬよう気を付け行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会、社員会議等において高齢者虐待防止について話し合いの場を持ち、検討しています。またホーム内において、それに関する事項の回覧を回し職員1人ひとりが意識を高めるようにしております。		

静岡県(グループホーム伊豆の家 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームの利用者様で対象になるような方がいた場合、伊東市社会福祉協議会などと協力関係を築いており、情報交換や今後の対応について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約、重要事項説明書等を利用者様、ご家族様の方々に十分な説明をし、質問等にも納得のいくように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時、行事等のご家族の参加等、随時、機会を得て意見や要望を把握し、サービスの提供に繋がるよう努めています。また利用者様及び利用者ご家族様意見箱を設置し運営に要望を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会や社員会議等において意見の場を設けており、できるかぎりスタッフの意見も尊重するよう代表者と管理者は努めている。またタイムカード場所に代表がいるように努めており日頃よりスタッフに声掛けをし意見を聞くように勤めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から職員の勤務状態等の報告を得て、勤務形態や勤務時間、給与水準を決める様努めています。また努力が認められた職員には定期的に、臨時賞与や施設利用券や商品券などを皆の前で表彰し、配布して喜んで頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護労働安定センターや全国認知症グループホーム協会の会員となっており、各研修に積極的に参加に努めています。また外部研修に参加希望者には勤務の調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や小規模部会(現在会長)などの部会を通じて、積極的に交流会や施設見学会を企画や立案し他事業者との情報交換に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人に十分にヒアリングを行い、ご本人が不安な場合は、共用型ディサービスを利用して頂き、ご本人が安心された時期をみはからって入所を勧めている。また要望等も可能な限り柔軟な対応で受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前は原則、ご家族様宅に伺い家族が抱えてる問題や不安がないよう可能な限り勤めている。またご家族がこられなくても入所後のご本人の写真を送ったり電話で連絡を入れている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主人公は利用者様であるという意識の中、最も望まれるサービス選択にいただき、ご家族様共々、安心、満足ある支援に心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の関係づくりは1つの家族として信頼しあえる間柄であるが尊敬と尊厳を守りつつ築くことに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活の中でささいな出来事や、事柄に対しても、共通の関心を持ち情報の共有によって連携を持ちながら支援していくことに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのかかりつけ医、歯医者はもちろんの事、本人の希望があれば、電話も引ける為今までの馴染みの人のと関係が途切れないよう支援に努めています。また馴染みの方が来やすいよう面会時間は24時間として支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴に配慮しながら、職員も時には利用者同士の間に入り、話題の架け橋に努めています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の病院などに訪問しその際に相談事や悩み等の対応にできる限り努めています。また対処されたご家族様が御相談に来られる事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の悩みや話を傾聴し、また、生活の中で利用者様の想いに配慮し、生活し易いよう支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より様々な情報を得て、その方にあつた暮らしを尊重し、居室や生活様式にあまり大きな変化がないよう配慮することに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人、お一人にとって一番居心地のよい生活パターンを把握し、できる限り希望にそえるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のアセスメントをすることによって生活にニーズを把握し、ご家族も含め、現在の生活を快適に過ごせるよう介護計画をたてて実行しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの長期、短期の目標の実現にそって、その介護内容を実施し、それが証明できる記録の作成に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況に応じて柔軟な対応を心掛けています。例えば、通院介助の付き添いにて日常の様子をコメントしたり、主治医以外の病院からの薬の調達を請け負ったり、個人的な買い物に同行したり独自のサービスにて対応しています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々によるギターや大正琴、踊り等を鑑賞し楽しみや喜びを体験し明日へのエネルギーにつながるよう職員も共に楽しむ姿勢を持っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院と連携を結び月2～4回程度の往診があります。その際、日頃から病状を把握し、ご家族との情報も交換しあいながら連携をもった関わりをしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護職との連絡がとれており、適切な相談、適切な受診を受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に関しては、往診主治医がほぼ判断し、入院後もホーム関係者や見舞いや洗濯物等の支援や病院のソーシャルワーカーとも関わりをもち退院、準備や、その後の行き先等の相談などで関わりを持っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に重度化した場合や終末期における御家族の希望を把握しホームでの対応のあり方等をご説明しできる限り希望にそう支援に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、全体会、研修会を通して、職員が応急手当や初期対応の実践力向上に励んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、避難訓練を行い、入居者様への意識付けや昼夜の勤務者が様々な場面での避難の対応が出来る様に繰り返し行っています。地域の方々に関しては、集まりがあった時に協力体制をお願いして承諾を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時や全体会等において言葉かけや対応の仕方の社員教育を行っています。また、利用者様を尊重し、尊厳する様努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話より、利用者様の思いや希望を把握し、職員同士が情報を共有し、自己決定できるよう努めています。また、ケアプラン等にも生かし、ご家族にも情報を伝えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の暮らしの主人公は利用者様であるという意識をもち何かを押し付けたり、嫌々するのではなく、その方の望まれることを見極めてサービスを提供しています。例えば、散歩、レクリエーション、昼寝様々です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容等に配慮し、服装も利用者様の希望の服を選んでいただき、イベント時にはお化粧品などを楽しんでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みの食べ物をなるべく提供し、見た目も楽しめるように工夫していくよう努めます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食、確認できるよう記録物があり、その様子によって追加摂取したり、補足したりしています。個々の状況により、食材や食形態を検討し、適切な状態での摂取を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアを実施しています。ガーゼ等で磨く場合は清潔保持にも配慮しています。口腔ケアが十分に行えない場合は、口腔ケア用の用品などを使って個別に対応しています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを理解し、できる限り不快感を感じないように排泄できるよう支援しています。また、オムツで入所された利用者様であっても尿意等がある場合はなるべくトイレにて排泄できるよう支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より便秘予防の為に食材、水分、運動等に配慮しています。また個別に補助食品として青汁、牛乳、ヨーグルト等を追加して摂取しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日だから無理にという事ではなく、ご本人の希望する日に入浴するように努めております。また入浴中は、ゆっくりくつろいで入っていたり、ゆっくり会話をしたりと努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人1人の体調を考慮し、動と静のバランスを随時心掛けています。また日中でも体を休めるようフロアにソファなども用意しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、服薬中の薬の目的、副作用を明示したものを個々のファイルをし各階でスタッフがいつでも見れることができるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の体調や生活パターンに合わせ、レクリエーションをしたり、天気の良い日などは散歩に出かけたりします。また、歩行訓練等にも努めています。カラオケなども通信でユニットごとに配置しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人力的な問題もあり、日頃の散歩以外に各自の人に希望にそった外出はできていないが地域のボランティアさんなどが積極的に関わってくださっており、外出支援を積極的に行ってくださいている		

静岡県(グループホーム伊豆の家 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の理解度の程度により、個々の手持ちのお金を保持されており、満足感や達成感を体験しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は、居室に電話を引いています。事務所の電話を使用し家族や知人等に電話をかけたり、希望があれば職員が手紙を出したりすることもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により玄関、掲示板の置物や生花、掲示板を支援し、どなたにとっても色、臭い光等が不快なく過ごせるよう空間作りに努めています。また共有空間はエアコン以外に、床暖房や、天井に除菌機能の空気清浄機をフロアごと3つずつ設置し快適に過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中に応接セットのソファを容姿し、ゆったりと腰かけて他入居者の方々や職員と会話したりくつろげるよう工夫しています。また家具も家庭にいる雰囲気大切にしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具はすべて個人が使用していたものを持参され時計やカレンダー布団、洋服など人それぞれ持ち込まれています。また電話や仏壇を持ち込まれている利用者もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、全てバリアフリーとなっており、共有スペースは空間も広く床暖房も設置されており、危険や事故のないよう配慮されています。また広々としている為、1人ひとりの意向にそったしたいことがゆっくり行える環境です。		